

暮らし

「イクメン」ならぬ「イクジイ」 おじいちゃんが孫を育てる時代

民主党の政権運営もグズグズの中、子育て環境は相変わらず厳しい。そこで新たな育児の担い手として、中高年男性の孫育てに注目が集まっているとか。つまり、イクメンならぬ「イクジイ」。

「都心部では保育園不足が深刻。子どもを実家に預ければ負担は祖母一人にのしかかり、娘と実母である祖母は同性だけに感情的な対立も発生しやすい。祖父が育児参加すれば丸く収まる部分は多く、期待も大きいんです」(NPO法人 孫育て・ニッポン理事長 棒田明子さん)

今年五月には、孫と祖父母をテーマにした新雑誌『孫の力』(木楽舎)が創刊。孫の存在がクローズアップされる中、孫育てに意欲を示す中高

年男性は多いが、

「企業戦士だった団塊男性のほとんどは我が子の育児をしておらず、ノウハウを知らない。よって家族からの信用もない」(NPO法人エガリテ大手前代表・古久保俊嗣さん)

そこで同組織では、去年二月より、オムツ交換や離乳食作りなど実技を中心とした祖父向け育児セミナーを実施。修了者に「ソフリエ」の資格認定を行っている。

パパの子育てを支援するNPO法人ファザリング・ジャパンでも『イクジイプロジェクト』として孫育て講座を実施しています。問い合わせも増えてきましたね」(代表・安藤哲也さん)。

さすがエネルギーシユな団塊世代、と思いきや、

「女性はともかく退職後の男性は、社会貢献したくても何をしたいか分からずに籠りがち。山登りやそば打ちなどの趣味も、単に暇を持て余した結果であることが多いんです。そういう男性を外へ引



「孫の力」

つ張り出す手段として孫育ては理想的。社会の前に、家族に必要とされ感謝されるのが重要」(前出・古久保さん)

また「孫と共に地域の子どもと交流することで、最近激減している世代間交流が促進される効果もあります。地域ぐるみの子育ても実現するはず」(前出・棒田さん)。

孫育ては、手応えもやりがいもある身近な「社会貢献」の第一歩ということらしい。さらにこんな波及効果も。「孫育てで家事能力が向上すれば、独居老人問題の解決策に」(前出・古久保さん)

もはや孫は日本を救う!?

(さのちあき)

事件
結婚で好感度アップ
スリムクラブ真栄田
一夜妻が性癖暴露

大晦日の夜、フジテレビは『爆笑そっくりものまね紅白歌合戦』を放送すると発表された。多数のお笑い芸人がものまねを披露するというが、注目は昨年のM-1グランプリで決勝進出を果たし、一躍ブレイクしたスリムクラブ。「独特のスローテンポの漫才